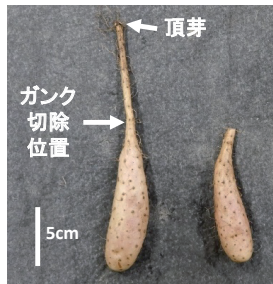


◎主な研究成果

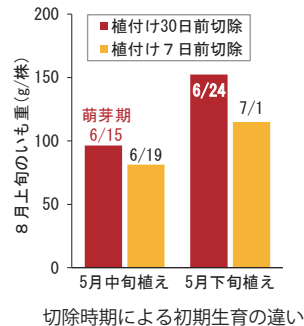
◆ナガイモ種いもの頂芽の切除方法

【目的】複数萌芽を減らし、初期生育を促進するための種いもの頂芽の切除時期を明らかにする。

【結果】ガंकから切除することで複数萌芽が減る。さらに、植付け30日前に切除することで、萌芽が早まり、初期生育が促進される。(令和3年度指導参考資料)



切除前 ガंक切除
種いもの切除位置



切除時期による初期生育の違い

◆ニンニクの品質向上

【目的】高品質出荷のための乾燥方法を明らかにする。

【結果】昼間は35℃、夜間は20～24℃で通風する「間断加温乾燥」により長期貯蔵後でも高い品質を維持できた。また、乾燥を失敗しないための「乾燥チェックリスト」を作成し、インターネット上に公開した。(平成29年度指導参考資料)

※間断加温乾燥はデンプリング乾燥とも呼ばれる。



正常りん片
(昼35℃～夜間常温の間断加温乾燥)



貯蔵障害発生りん片
(35℃連続乾燥、ソヤ減退、くぼみ・変色発生)

◆冬春播きタマネギ栽培の適品種

【目的】本県における冬春播きタマネギ栽培に適する品種を選定する。

【結果】7月下旬～8月中旬までに収穫できる4品種を選定した。(平成31年度指導参考資料)



「オーロラ」



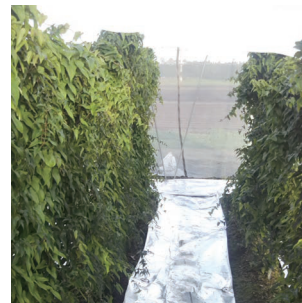
「マルソー」

タマネギの品種

◆ナガイモ種子用むかごの増収施設

【目的】反射シート設置や催芽処理によりナガイモ種子用むかごの増収を図る。

【結果】むかごの総収量は反射シート被覆や催芽処理により5割以上増加した。(平成31年度指導参考資料)



通路への反射シート設置



催芽処理による生育の違い
(左: 無処理区、右: 催芽区)

◆ニンニクのイモグサレセンチュウ発生生態の解明

【目的】イモグサレセンチュウ被害ニンニクの、地上部における寄生実態を明らかにして防除対策に生かす。

【結果】イモグサレセンチュウは、ニンニクリン球だけでなく、地上部の植物体全体(珠芽を含む)に寄生する。(令和2年度指導参考資料)



イモグサレセンチュウ

	調査部位	調査日(頭/部位)		
		5月31日	6月14日	6月24日
地上部	総苞(珠芽)	0	0.3	3.5
	葉身	0	129.7	101.0
	葉鞘	2.0	373.6	2127.0
	花茎	0	0.3	1.0
地下部	上部	0	0.3	20.5
	下部	0	0.3	20.5
	葉鞘	58.4	1213.0	4220.0
	保護葉	0.7	0	393.5
	りん片	0.3	2.0	44.5
	盤基	75.3	447.8	563.5
	根	6,096.7	859.1	363.0

ニンニクの植物体内のセンチュウ数

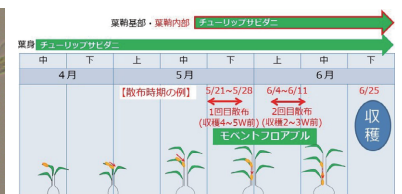
◆ニンニクにおけるチューリップサビダニの効果的な防除法

【目的】チューリップサビダニの、ニンニク植物体内での寄生部位を明らかにし、効果的な防除法を開発する。

【結果】モベントフロアブルを生育期に2回茎葉散布することで、高い防除効果が得られる。(令和2年度指導参考資料)



チューリップサビダニ



モベントフロアブルの散布時期の例